

2023 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
専門学校 麻生工科自動車大学校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校 麻生工科自動車大学校の2023年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2024年 1月 31 日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 永江 貴史

### 目 次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 4 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 6 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 6 -
基準 2 学校運営.....	- 7 -
基準 3 教育活動.....	- 12 -
基準 4 学修成果.....	- 17 -
基準 5 学生支援.....	- 19 -
基準 6 教育環境.....	- 20 -
基準 7 学生募集.....	- 22 -
基準 8 財務.....	- 23 -
基準 9 法令遵守.....	- 24 -
基準10 内部質保証.....	- 25 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 26 -
基準12 国際交流.....	- 27 -

### 評価結果

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

# I 教育理念・教育目標(育成人材像)

## ① 教育理念

一流技術者として広く国内外で活躍できる確かな技術と知識、コミュニケーション力を備え、感謝心や他者を思いやる気持ちを持つ社会性豊かな学生を輩出する。

## ② 教育目標(育成人材像)

### 【1級自動車整備科】

4年間で1級自動車整備士資格を目指す。幅広い高度な整備技術能力(新しい電子制御機構や新技術にも対応できる総合診断力)とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとしての人材を育成する。さらに、環境保全や安全管理の学習を通して、職場や地域環境保護に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

### 【2級自動車整備科】

2年間で2級自動車整備士取得(ガソリン・ディーゼル)を目指す。整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。また、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせ、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる人材を育成する。

### 【国際自動車整備科】

3年間で2級自動車整備士取得(ガソリン・ディーゼル)を目指す。日本企業が求めるビジネスコミュニケーション力および整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。

### 【自動車工学・機械設計科】

車両開発制作実習を通して、自動車の構造を理解し、構想設計、詳細設計、コスト管理、プロジェクト管理、スケジュール管理を実践的に学び、設計開発エンジニア、生産技術エンジニアを目指す。自動車メーカー、自動車部品メーカー、産業機械メーカー、エンジニアリング企業のいずれにも対応できるカリキュラムで、自ら考え、自ら動けるものづくりエンジニアを育成する。

## Ⅱ 重点項目

### 1. 重点項目

#### ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業の体系的な配置

自動車業界は現在、自動車の「自動化」、「電動化」が進展する、中様々な新技術が登場し次世代自動車の開発が進んでいる。そのため業界で必要される技術者の育成を目的に、各学科のカリキュラムをもとにディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの整合性をとり、体系的なカリキュラムを編成する。

#### ② 教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)化に向けたコンテンツ制作および活用

教育のDX化は、学生や教育者にとってより効果的で魅力的な学習環境を構築する手段として必要であり、オンライン学習やデジタル教材を活用することで、学生の能力向上と教育プロセスの最適化を図るため、授業ツールのデジタル化と共有を進めていく。

#### ③ 留学生に対するサポート体制の整備

就学、生活環境、就職など留学生の学校生活における様々な悩み、要望に応える事ができる体制を整備する。

### 2. 取組み状況

#### ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業の体系的な配置

令和4年5月に自動車整備士技能検定規則の改正に伴い、カリキュラムの変更を進めている。  
教科書も順次変更されてきているので、学年ごとにシラバスの検討に入った。

#### ② 教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)化に向けたコンテンツ制作および活用

DX化に伴う授業ツールとして、麻生塾独自のラーニングマネジメントシステムで学習教材の配信や成績などを統合し管理するシステム Teachare(ティーチャー Teach+Share)の導入を進めて行くため、授業ツールのデジタル化に長けた教務が先行して制作を行っている。

#### ③ 留学生に対するサポート体制の整備

留学生の就学支援として留学生対象の奨学生制度の活用や企業奨学金制度の拡大を図った。  
また、日本語力向上のため、模擬試験の実施や学習ツールの導入を行った。

### 3. 総括(成果と課題)

#### ① 革新する自動車技術を見据えた授業の見直しを行い、順次性のある授業の体系的な配置

自動車整備士資格制度の変更に伴い、令和7年度の入学生より制度変更にあったカリキュラムを運用していくため、カリキュラム作成に必要な情報集を積極的に行っていく。

#### ② 教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)化に向けたコンテンツ制作および活用

Teachare のコンテンツの制作については、一部の教員に留まっており、教員全体としての取り組みとしては不十分である。デジタル技術を活用し、学習のあり方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立していく。

#### ③ 留学生に対するサポート体制の整備

就学支援として様々な奨学金制度を活用することで金銭面のサポートをすることができた。また、留学生が主体となった交流会やボランティア清掃活動などの活動を通して活性化を図ることができた。今後も適宜課題を吸い上げ、留学生に対するサポート体制の改善を図っていく。

## Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

-----  
基準 1 教育理念、目的、育成人材像  
-----

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人の理念は明文化し、学校法人麻生塾のホームページで公表している。この法人の理念に基づいて、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定めており、学校のホームページにて公表している。また、これらは学生便覧に掲載し、教職員及び学生に周知している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====  
基準 2 学校運営  
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

運営方針は学校の教育理念に沿って策定され、学校責任者が組織図や校務分掌を全教職員へ提示、共有し、組織の一体化を図っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を策定し、学校責任者が年度当初に全教職員向けに提示、共有し全員の意思を統一し、執行している。執行状況は毎月の教務会議で報告、検証されている。

【課題及びその改善方策】

運営方針や事業計画については、これまで通り毎月の教務会議で執行状況を検証し修正を加えながら取り組んでいるが、一部の項目で修正が可視化できていないところがあるため、部署ごとに改善策を教職員全員に周知できる仕組みを作る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	A

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別に必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

本校では、学校全体、担当者、管理職に分かれ全体教務会議とリーダー会議は月に一回、管理職会議は毎週一回と定期的に行い確認事項、決定事項等運営に問題はない。また、急を要する事項については、必要に応じて各会議体を開催し、確認と決定を行っている。

事務職員が配置されており、学校法人麻生塾経理グループによって処理される経理事務以外の事務は、学校の事務組織で処理している。

事務職員の資質・能力向上に関する取り組みとして、各職員が目標管理シートでチャレンジ目標を設定したうえで、職員それぞれが取り組んでいる。

【課題及びその改善方策】

定期的または、必要に応じて各部署で会議を行っているが、意思決定権限が明確にされていなかったため、今後整備して行く。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	A
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。なお、2024年度の人事制度改革に向け新制度設計の整備が完了し、学校法人麻生塾人事グループが新制度内容の変更点周知に併せ既存制度の再理解を図るよう活動をすすめている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、学校法人麻生塾独自の情報管理システムである麻生塾システムで広報・入試・学籍・教務・就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。

Microsoft 365 により業務効率化は図られている。

【課題及びその改善方策】

情報システムの全教職員の理解と作業効率の向上はある程度図られているが、情報システムが多様化しているため、システムの運用方法を検討し、業務効率の更なる向上を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A

=====  
 基準 3 教育活動  
 =====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育目標(育成人材像)に基づいた課程修了の方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、それに基づき学則及び成績評価、進級および卒業に関する規程を併せて定めている。ホームページ等で明示し、学校構成員に周知するとともに、広く社会に公表している。その上で定期的に検証を行っている。

また、教育目標(育成人材像)に基づいたカリキュラム・ポリシーを明示し学校構成員に周知している。また、カリキュラム及び授業科目等の概要はホームページを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、社会や時代背景により「育成する人材像」は流動的に変化するため、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会にて企業・業界団体の意見を取り入れ、社会や企業のニーズに合った育成人材像を検討し、それに対応したカリキュラムを編成していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。

業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で学科・実習などの教育方法および適切な時間配分により十分な学習指導を行えているが体系的なカリキュラムマップの作成までには至っていない。

授業はシラバスに基づいて実施されており、授業報告書等はデータとして保管した上で学校構成員に周知を図っている。

専攻分野における実践的な職業教育については、様々な企業と連携し、実践的な経験や業界の最新動向を企業連携授業やインターンシップを通して経験することができ、業界で必要なスキルや知識を身につけることに役立っている。

各学科とも「就職実務」の授業内での企業からの職種理解セミナーやOB・OG体験談などにより、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促している。

【課題及びその改善方策】

業界の技術革新や整備人材ニーズを踏まえた自動車整備士資格制度の改正に対応するため、改正を見越したカリキュラムの作成を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業評価として、全教員及び非常勤講師を対象に年2回授業アンケートを実施している。評価結果は集計、分析後に各教員に結果を通知している。評価結果により必要に応じて部門長による授業見学及び個別指導を実施し、授業改善を促している。

また、新任の教員対象にチューターを、非常勤講師には担当教員をつけ、授業の評価と改善指導を行っている。

【課題及びその改善方策】

授業アンケート結果を基に面談を実施しているが、改善活動の記録ができていないため、継続的なフォローを実施し、授業内容やクラス運営の更なる改善を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	B

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、進級および卒業に関する規程を定め、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確にしている。成績評価については「期末成績・評価実施要領」を作成し、評価基準の統一を図り、科目間に差が生じないようにしている。また、定期試験や平常点の結果については成績入力表へ入力し、可視化を行い、成績判定内容の差を無くしている。また、授業時数及び授業方法により単位数を決定し認定している。

さらに成績評価、進級および卒業に関する規程に基づき、適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っている。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、成績評価については職業実践専門課程・教育課程編成委員会にて期末試験や单元ごとに実施する授業内容確認テストの内容についても意見を頂き、さらに評価精度を上げていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な人員を確保し、教員の組織体制を整備している。  
 また、教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のために、学内・企業団体が実施する研修へ参加することでスキル等の向上を図っている。

【課題及びその改善方策】

企業団体が主催する教員向けの研修について、定期的に職員が参加しているが、人によって参加頻度にばらつきがあるため、学内・企業団体が実施する研修への参加については、年間計画を立て、計画的に参加をする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	A
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	A
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	A

=====  
 基準 4 学修成果  
 =====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

年度初めに各学科、学年に分かれて学生の就職率、資格取得率向上及び退学率の低減等に関する成果目標を設定し、それぞれ目標を達成する取り組みを行った。リーダー会議、全体会議でその実績等成果状況を共有している。実績等を踏まえて各学科、学年で上がった改善点をリーダー、管理職と共有し目標達成に向けた取り組みを行っている。

【課題及びその改善方策】

各目標数値を達成できなかった原因と対策を各学科や学年だけでしか共有できていないため、学校全体で改善状況を共有できる環境を作り、問題提起や修正改善案を検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	S

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

就職先の企業へアンケートを実施し、そのアンケートで得られた企業からの評価を教職員共有サイトで共有し、また卒業生からの情報は「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を通じて共有する場を設けている。

【課題及びその改善方策】

卒業後の動向や就業状況の調査が不十分なため、就職グループと連携し、麻生専門学校グループ全体の評価や他グループ校との比較データなども共有してキャリア形成に活かしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	A

=====  
 基準 5 学生支援  
 =====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生の就職・進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。

学生相談に関してはカウンセラー及びハラスメント委員を設置している。また、学生便覧に二次元コードを掲載し、気兼ねなく学生相談室の予約ができるようにしている。

学生の経済的側面に対する支援として、独立行政法人日本学生支援機構奨学金制度や学校法人麻生塾独自の奨学金制度、学費分納制度を整備し学生へ案内している。

学生の健康管理を担う体制として、定期的な健康診断の実施やAEDを設置するなどにより整備している。

学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置を行っている。

保護者等との連携については、担任を軸に保護者会や三者面談などを実施している。

卒業生に関しては、校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

その他、学生の課外活動に対する支援として各クラブに顧問を置き、活性化・支援を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外

5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S
-------	--------------------------	---

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

=====  
 基準 6 教育環境  
 =====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

法令に則り、教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、学校設備・教育備品・教具の維持・管理、安全・衛生を確保している。実習車を計画的に入れ替えるなど、教育上の必要性に対応した機材・備品を整備している。

【課題及びその改善方策】

自動車整備士資格試験の変更に伴い、教科書の改訂が行われるため教科書の内容に合わせた二輪車の入れ替えを行う。

図書コーナーについては、教室の移動で稼働できていない状況が続いているため、長期的に使用できる体制を整え、学生へ展開をしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

学外の実習施設、一般社団法人福岡県自動車整備振興会にて定期的に研修を受講させている。インターンシップとして、1級整備科については4年次に内定先企業を基本として体験実習を実施している。

研修旅行については、新型コロナウイルス感染症が第5類に分類されたことから海外への研修旅行を再開し、韓国自動車メーカーの見学やインドネシアの大学生との交流、自動車組み立て工場の見学など充実した研修をすることができた。

【課題及びその改善方策】

防災訓練については、人事異動があり定期的に実施がされていないため、防火管理者を中心に計画を立て実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	B

=====  
 基準 7 学生募集  
 =====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表している。

募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

また、校納金については健全な設定がなされている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

=====  
 基準 8 財務  
 =====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

また、私立学校法及び寄付行ために基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その取り組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行ために基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====  
基準 9 法令遵守  
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。

法令等遵守に関する啓発や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、関連法令に基づいた規程に従い業務を行っている。

法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S

=====  
 基準10 内部質保証  
 =====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。  
 学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取組みを行っている。  
 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題及びその改善方策】

自己点検・評価活動に教職員全体で関われるようにするとともに、改善計画について進捗状況の確認と修正を定期的に確認する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	B
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====  
基準11 社会貢献・地域貢献  
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

社会貢献事業の一環として、小学生や中学生を対象にした職業体験を昨年度から計画をしていたが、今年度は各方面と調整し多くの職業体験授業を実施することができた。

学生のボランティア活動については、留学生会(麻生専門学校グループの一部の学校に所属する留学生で構成する会)にて地域清掃のボランティア活動を行った。

【課題及びその改善方策】

ボランティア活動については、留学生会(麻生専門学校グループの一部の学校に所属する留学生で構成する会)を中心に活動しているが全学生対象のボランティアに広げるなど新たな取り組みを検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	A

=====  
 基準12 国際交流  
 =====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。

留学生に対する相談体制を整えるために、各クラス担任及び担当主任が、在籍している留学生対象に在校生アンケートを実施し、そこで得られた意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。また、ビザの更新手続きに対応できる有資格者を事務室に配備している。

留学プログラムについては、コロナ禍での中断を経て、渡航留学プログラムは完全に再開している。ただし、渡航に不安のある学生向けにオンライン留学という選択肢は残している。麻生専門学校グループ内の留学担当部門が留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、また学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、留学生会を通じて、学校が留学生間の課題や要望などを聞き取り、さらに支援できるようにしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S